

◆ペタキン池の歩み②

羽尻 嵩

2012年5月3日 バラタナゴを育種する池が完成。

※ タナゴは二枚貝に産卵する。そのため2枚



写真 阿部氏提供

貝(タガイ)の育種も必要となる。

3月初めから、新池に投入する貝がならやまの水に合う

かどうかの

水合わせをしてきたが、貝の無事が確認されたので、5月10日に15個の貝(タガイ)を新池に入れた。

6月7日 ニッポンバラタナゴの放流

近畿大学農学部の中川忠生先生と、担当の学生数名がバラタナゴのオスとメス各5匹計10匹持ってこられ、それをみんなで新しい池に放



流した。先生から会に「ニッポンバラタナゴ里親団体第1号」の認定証が渡された。

7月31日1cmぐらいの稚魚がメダカのように群れをなして泳いでいた。網ですくうとバラタナゴの稚魚が数匹かかった。万歳!



これでバラタナゴ育種の第1段階は成功し、タナゴの育種は第2段階に入った。

第2段階とは：タナゴを増やすためにはタガイ(二枚貝)を増やさなければならないが、タガイの幼生はヨシノボリに寄生して成長していくので、バラタナゴの育種には、タガイとヨシノボリの育種も必要です。

10月4日 シマヒレヨシノボリの放流

このヨシノボリは、木津川水系で学生たちが9月末に捕獲してきた8匹です。タガイは春先から多数の幼生を放出し、その幼生はヨシノボリのエラに付着し栄養分をとり、数週間後に稚貝となります。

12月11日 タナゴ池の生物調査

北川先生と学生数人でポンプと網で水を掻き出して、池の中の生物を調べた。



《タナゴ池の調査の結果》

ニッポンバラタナゴ 225 個体、シマヒレヨシノボリ 1 個体、タガイ 14 個体、その他エビ類など多数が捕獲された。

バラタナゴは10個体から255個体と大幅に増えた。しかし、タガイは15個体から1個体に減少し、稚貝は全く見つからなかった。

ヨシノボリとタガイの育種は、次年度以降の課題となった。 (6月号へ続く)